



第8号

発行者
会津能楽会
責任者
佐藤ヨシカ

〒965-0856
会津若松市幕内東町2-11
電話0242(26)1003

- [2] [3] 演能の記録(28年度)
- [4] [5] 演能の記録(29年度)
- [6] グループ紹介(第3回)
- [7] 能のひびき(随想他)
- [8] [9] 根ざし行く育成委員会活動
- [10] 寄稿文
- [11] ホームページについてその他
- [12] 役員名簿
その他情報
編集後記



会津能楽会の一翼を担って

副会長 湯田 眞佐弘

新しい年を迎え、会報八号をお届けすることができ、大変うれしく思います。皆様のご活躍の様子をよく伝えていきたいと思います。

会員の皆様はご承知のことですが、会津能楽会は宝生流と観世流の会員で構成されております。こうした能楽団体は全国でも極めて稀なケースだと聞いております。そんな事情もあり、平成九年、観世流に属する私が理事に選ばれ、理事歴二十年となりました。また、平成十七年には副会長に選ばれ、はや十三年になります。あまりお役に立たなかったかもしれないが、その間、大事業だった能楽堂建設協会の一員となり、微力ながら地域や観世流ネットワークでの募金活動や本会の活動にかかわってまいりました。その能楽堂には、いまでもかすかな檜の香りが残っています。それを感じながらできる年三回の公演は実に感慨深いものがあります。だが、残念なことは能楽堂見所の雨対策が TENT 一張りであることです。せめてもう一張りがあれば、お客様も濡れることなく、満足してお帰りいただけることだったことがたびたびありました。

私たち観世流の会員は会津能楽会では少数派です。「演能」においては「お役」は受けていませんが、「囃子方」「装束方」のスタッフとし、また個人では仕舞や舞囃子でそれぞれの存在感を示しております。

さて、私事ではなはだ恐縮ですが、ここに私と能楽の関わりを述べてみたいと思います。

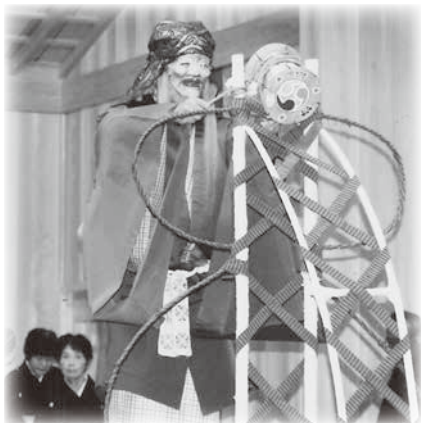
私は昭和二十七年四月一日会津若松市在住の市川源次郎先生から、観世流一声会への入門を許されました。私は当時十五歳でしたから今年で能楽歴六十五年の月日が流れたことになりました。

市川先生がご逝去された昭和五十二年一月からは、毎月一回、東京から北浪昭雄先生にお願いいただき、東日本大震災直前まで三十四年間、下郷の我が家で指導をされ、一泊されたのち若松会場へと移動されておりました。大震災後は指導が終わると直ちに若松に向かわれ一泊されるようになりました。当時言われた風評被災の延長かと思われまふ。

平成二十九年十一月十二日、会津若松市内の松枝舞台(元能楽会会長宅)で一声会創立六十五周年記念謡曲大会を無事終わることができ、現在、ほっとしているところであります。

今年の四月一日には松枝舞台において、会津観世流連合会の第六十九回謡曲大会を開催される運びとなっておりますので、みなさまのご来場をお待ちしております。

会津能楽会では流派にかかわらず、共に協力し合うことがごくスムーズに行われています。今後の会津の能文化の発展のためには大変喜ばしいことだと思っています。



笑顔に見えませんか



朝倉尉 会津能楽会所蔵
庶民的な顔立ちで現実的な老人に使用される。平成二十九年の薪能「天鼓」前シテで着用(左の写真)

演能の記録

—平成二十八年—二十九年

平成二十八年

春の演能

五月二十九日(日)
会津能楽堂

「草紙洗(半能)」



後シテ 山垣美枝子
ワキ 上野 正義
貫之 平山 昇
立衆 二瓶 晃
立衆 洪川 兼三
子方 宇田 宣子
大鼓 坂内 庄一
小鼓 折笠 成美
笛 角田久美子

地謡 秋本 征子 瓜生 光子

増井 典子 佐藤ヨシカ
吉田 豊子 玉川おくに
佐藤 文江 渡部 妙子

後見 堀 篤子 渡辺ヒロ子



第三十回

会津鶴ヶ城新能

九月二十二日(祝・木)

会津能楽堂

「黒塚」



前シテ 佐藤ヨシカ
後シテ 坂内 庄一
ワキ 洪川 兼三
ワキヅレ 佐藤 仁
大鼓 船木 真一
小鼓 折笠 成美
太鼓 長谷川士希子
笛 石田 桂子

地謡 星 英男 皆川 米作

白井 治男 一条 正夫
鈴木 圭介 平山 昇
長澤 豊 相田 幸三

後見 上野 正義 堀 篤子

解説 増井 典子



秋の演能

十月三十日(日)
会津能楽堂

「経政」

ワ シ
キ テ
鈴木 堀
圭介 篤子

囃子大

小鼓 坂内 庄一
鼓 栗城 幸子
笛 佐藤 仁地謡 斎藤 堅 皆川 米作
二瓶 晃 折笠 成美長澤 豊 岩渕 健一
松尾 幸生 洪川 兼三

後見 上野 正義 山内 幸雄

経政のワキは宮廷に仕える大納言の僧都で身分も高く鬘桶(腰桶)に座している

能「経政」の
笛方を務めて

佐藤 仁

山田和彦先生亡きあと、能の笛方をつとめなければならなくなった。拍子も知らない者が能の笛を吹くなどということがあつてもよいものか、そんな忸怩たる思いを飲み下しながら引き受けた。

六月二十一日、森田流の寺井師に會調(あしらい)を謠本に書き込んでいただいた。會調は「名乗り笛」から始まって全部で十五カ所、覚えされるか、不安が募った。本格的な稽古が始まったのは七月二十三日、寺井師の容赦ない張扇の音と怒声が飛ぶ。冷や汗三斗、いや油汗というべきか、身のちじまる想いをした。以後、龍風会での稽古は『経政』の笛に終始した。夜半、静寂のなかで『経政』のテープを流しながら會調を吹く日々が続いた。

十月三十日、その日その時が来た。鏡の間でお調べを吹く。心臓の鼓動が吹き込む息に混じり、音が揺れる。橋掛かりを渡り所定の位置に就く。左膝を真っ直ぐに、右膝は右へ開く。なるほど、この姿勢だと幕の揚げ下げが見える。ヒヒョウルーリー名乗り笛を吹く。音の出は悪くない。全身で詞章を追う、大小の音に耳を傾ける。大鼓坂内さんの

「イヤー！」がひととき大きく聞こえる。促されるように「翔」を吹いていた。ここまで来れば舞台は大詰め。安堵の思いが湧いてくる。「魄霊は失せにけり」息を胸に一杯貯めこんで「留ノ高音」を思い切り吹いて、終わった。



平成二十九年

春の演能

五月二十七日(土)
会津能楽堂

「雲雀山」



前シテ 渡部 妙子
後シテ 山垣美枝子
ワ キ 松尾 幸生
ワ キ ヅレ 長澤 豊
従 者 皆川 米作
子 方 山垣杏桜子

囃子 大 鼓 坂内 庄一
小 鼓 折笠 成美
笛 寺田林太郎

地 謡 渡部 静子 渡辺ヒロ子
吉田 豊子 佐藤ヨシカ

堀 篤子 栗城 幸子
佐藤 文江 遠藤ヒロ子

後 見 上野 正義 山垣 正英
長谷川桂子

能「雲雀山」
ワキヅレに出演して

長澤 豊

春の能演会での「雲雀山」ワキヅレの話がありました時、不器用な私は、不安と心配で仕方ありませんでした。実際、お稽古に入りますと先ず謡の暗記、二十行位なのですが、なかなか覚えられない。是は大変な事を引き受けたものだと思いましたが、こうなったら、やるしかないと思ひ、毎日朝夕と練習を繰り返しました。又姿勢や歩き方(運び)が全くなっていない。そして、扇の持ち方、構えや、ヒラキ、ヒネリ、立拝等何回か教えていただきましたが、身につかない。それでも練習を続けているうちに、自己流かもしれないが、少しはサマになって来た様な気がします。いよいよ、五月二十

七日の当日、幕が上がってから常座まで進んで止まり、ヒラキをしてから、「かように候者は、」で始まりましたが、ちょうど中頃で、謡が詰まってしまった。「あつしまつた」と思った時、地頭のヨシカ先生の一音がかすかに聞こえました。本当に「地獄に仏」の思いです。ありがとうございました。今さらながら本番での怖さと、厳しさを知らされました。己の未熟さをつくづく感じております。これまで、御指導と御世話いただきました先生、皆様方に厚く御礼申し上げます。

足がしびれた雲雀山

坂下東小学校四年 山垣杏桜子

おばあちゃんやおじいちゃんたちと能をやりました。私は子方のおひめさまの役をやりました。能のいしょうは、ふつうの着物とちがつて、何人もの人に着せてもらいました。本物の長いかみの毛のかつらも初めて見ました。かつらも何人もの人でつけてもらいました。きつくしめられて大変でした。とつた時は、ひたいにあとがついていました。

一番苦しかったのは、ずうとすわっていたことです。足がしびれてびりびりと電気が通ったような感じでした。「まっすぐ見ていなさい。」とお母さんが手で合図してきまし

た。私はまっすぐを見ていました。パチパチとたくさん写真をとる音がしていました。自分のうたいをうたう前までどきどきして手にあせをかいていました。そして、思いきって「げにやー」と大きな声でうたいました。

やっと最後に立つ時がきました。足はしびれすぎてブーツみたいになってしまいました。でも、自分なりのすり足でいっしょうけんめい歩いていきました。まくの所までいくのがとても長い感じがしました。

かつらを取ってもらったら顔から頭からゆげがたくさん出ました。いつもよりたくさんほめてもらえてとてもうれしかったです。



第三十一回 会津鶴ヶ城新能

九月二十三日(祝・土)
会津能楽堂

「天鼓」



前シテ 上野 正義
後シテ 折笠 成美
ワ キ 洪川 兼三

囃子 大 鼓 坂内 庄一
小 鼓 栗城 幸子
笛 野崎 邦子

地謡 深谷 信也 星 英男

佐藤 仁 一条 正夫
二瓶 晃 平山 昇
船木 真一 鈴木 圭介

後見 佐藤ヨシカ 渡部 静子
角田久美子 長谷川桂子

解説 増井 典子

秋の演能

十月二十九日(日)
会津能楽堂



前シテ 一条 正夫
後シテ 平山 昇
ワ キ 大野 篤
ワキヅレ 山垣 正英

囃子 大 鼓 船木 真一
小 鼓 折笠 成美
太 鼓 長谷川士希子

笛 佐藤 仁

地謡 宇田 宣子 栗城 幸子
渡部 静子 佐藤ヨシカ
増井 典子 玉川おくに
山垣美枝子 渡辺ヒロ子

後見 洪川 兼三 坂内 實
長谷川桂子 角田久美子



シテの冠り物(龍頭)



初めての能舞台

大野 篤

突然の電話から、能「岩船」のワキが始まりました。次の日から謡本とにらめっこ。何度も何度も反復練習です。所作の指導者は折笠先生です。初めての経験でしたので、一連の流れが読めず何を考えているのかと、思われたことと思います。折笠先生のもと、三回程、三人で稽古をつけていただき、その後、佐藤会長にも指導を受けました。運びには苦労しました。どの辺を進めば良いのか迷いました。山垣さんと一緒に動くタイミングがまだつかめないまま、本番が来てしまいました。着付の始まりです。一枚一枚重ねる毎に、何だか昔人になって身も心もひきしまる思いです。又、着付の際には若手の方を先輩達が指導なさっていて、ここにも伝統を受け継いで行くと言う心意気を感じました。舞台は終わりました。詞章が途中で切れ、うろろしているような夢を見る程、緊張の日々でしたが、周囲の色々な方に支えられ何とか、大役を果たすことが出来、本当にホッとしております。この体験から謡の大切さをつくづくと痛感させられました。基礎である謡の稽古により一層力を入れて、頑張ろうと決意を新たにしました所です。

グループ紹介(第三回)

輝雲会

会津支部代表 一条 正夫

宝生流輝雲会会津支部は、故石橋徳治氏・故瓜生三郎氏が中心となり宝生流シテ方能楽師・小倉輝泰先生へ会津での謡・仕舞の指導をお願いし、昭和四十七年九月からの発足です。当時の会員は詳しくは解りませんが、多かったですと聞いております。

昭和六十二年に小倉輝泰先生がご逝去されて同年にご子息小倉敏克先生(重要無形文化財能楽総合保持者)が輝雲会を継承し現在に至っております。

先生の稽古場は、千葉・東京・群馬・福島にありまして、福島県には、会津・須賀川・本宮・二本松にあり、各支部月一回の稽古を行っております。

水道橋能楽堂での発表会は年一回行われ、今年は十一月に行われて、会津からは、能と舞囃子・仕舞が演じられ、会員各々稽古の成果を発揮し立派な舞台でした。

これからも皆さんと楽しい稽古場を作っていきたいと思っております。

大鼓の会

坂内 庄一

現在は調寿会として飯島六之佐師より稽古を受けております。平成二十五年に亡くなられた上條芳暉師の頃は車教台に乗り合わせて行き、金沢大会で勉強させていただきました。上條師が会津に来る時の約束は、神楽の稽古はしないとのことだったそうです。後日、会食中の談話で稽古が進むにつれて両曲共させていただきましたので皆さん感謝したものです。飯島師の稽古は新潟で年に五〜六回です。日頃おっしゃっていることは亀井忠雄師より「飯島師が経験した曲は全て社中の方にも許可します」とのこと、大変有難いと思っております。私も数年前、勧進帳をさせていただき身が引き締まる思いでした。「素謡だけでなく何か一ツ囃子をする事により謡に奥行き広がりが出るよ」と先輩に誘われたことを思い出します。思いたったが吉日、皆様是非始めてみては如何ですか。

新能「天鼓」

演能について

折笠 成美

平成二十九年新能「天鼓」の後シテを担当、作り物の作成に当たり、野月師のアドバイスをいただき、羯鼓は自前のものを提供するとし、羯鼓台(太鼓台)は、宝生会の大きなポスター及び二本のビデオで全体像を把握しました。

紅緞は、能装束店より購入すると〇万円することです。東京の手芸専門店を訪れ探すもイメージに合った物がみつからず思案に暮れていたところ、灯台下暗し、偶然に某道の駅のお土産品の中に、イメージに合致した「会津木綿」を見つけました。早速、織元を訪れ購入しました。早速、織元を訪れ購入しました。羯鼓台(太鼓台)に交差させて飾りつけるため、小野木和子さんにお手数をおかけし、袋状の紐に仕立てていただきました。左右の湾曲した瓢箪形状の物は、形が整うまで試行錯誤を重ね苦勞しました。

先日、宝生能楽堂の鏡の間の脇にある作り物置場で羯鼓台を見てきましたところ、会津より少々小ぶりでした。

演出については、小書(特殊演出)「呼出」(替ノ型)とし、ワキの呼出しで前シテが登場。一セイ・サシ・下歌・上歌を抜き「クセ」も省略し

前シテの負担を軽減。

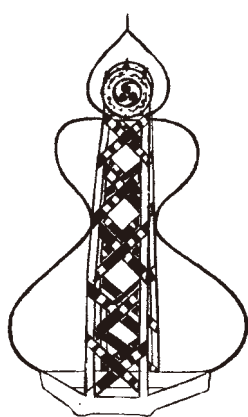
立方・地謡方・囃子方・着付方。それぞれの協力により「会津でこの様に重厚な能が見られるとは思わなかった」といった見所の感想を聞くことが出来ました。

羯鼓台は、将来手を加えて富士太鼓・梅枝・難波などに応用が可能であるとされます。

太鼓臺

台輪に櫓のようなものを立て紅緞で飾り、上に羯鼓を載せ、撥を添える。初めに舞台に出し、前シテ、後シテ何れも撥にて打つ。

※紅緞：紅い緞(織物の一種) 謡本にある正面図



山田和彦師の思い出

堀 篤子

山田和彦先生とお話できたのは平成二十七年十二月二十五日が最後でした。先生は竹田総合病院の10階に移られていて、私ども夫婦が何うと、ちょうどクリスマス会が開催されており、一緒に歌を歌い、ケーキを食べ、職員の方が演じる余興を楽しんだものです。しかし、お別れするとき「またお誕生日（一月十六日）にお伺いします」と申し上げたのですが、お返事はなく、翌年一月十日の朝静かに逝ってしまわれました。

能のひびき

あれから二年の月日が経ち、弟子たちはそれぞれに学んでいます。再会するたびに師を懐かしみ、皆が口にすることがあります。勤めや家事に追われる私たちは稽古が足りず、先生のご指導にすがつて、ご無礼にも早朝、時には夜分の稽古をお願いすると「大丈夫ですよ。どうぞお出てください」。いつもそう応えてくださいました。

普段の先生はほかからで、しかも腰が低く、世事にも長けておられて、私たちはざっくばらんにお付き

合いました。しかし、こと能の世界に入れば話は別で、分をわきまえることを説かれ、私などはお声が聴こえただけで背筋がピシッとしたものです。先の「大丈夫ですよ」も単にお人柄のせいにしてはいけなないのでしよう。弟子の指導は何時いかなる場合でも怠らないとした、能楽に身を捧げた人の、ご自分をきびしく律する（いつも着物、袴に着替えて待つていてくださいました）言葉にちがいがなく、今顧みても身の引きしまる思いがいたします。

10階に移られたばかりのころ長女の明さん（投薬の影響で先生の意識が混濁する状況を心配しておられました）から思わぬ依頼がありました。先生が枕元に置く謡本を用いて謡ってほしいということです。声高らかに謡いました。ひどい出来栄でしたが、先生ははかすかにうなずかれただけでした。手直しできないことが歯がゆかったにちがいません。

今年度も育成委員会主催の能楽教室が多くの小学校で開かれ、私は主に笛の担当を務めたのですが、どの学校でも音を出せた時の子供の笑顔はすばらしく、それを見たさに出かけるのです。しかし、子供たちに音を出してもらうことはむずかしい。指導の秘訣などなく、結局は私自身が山田先生から学んだように、基礎基本をくり返し習ってもらったしかあ

りません。先生の願いが少しずつ伝わっていくのだと信じながら…。

初めての能舞台で

山垣 正英

秋の能楽会の能「岩船」のワキツレの役の話があり、軽い気持ちでお引き受けしました。九月末に折笠先生にご指導を受けました。長袴を着ての所作は私にとっては、初めての経験でもあり、大変なものでした。八コビの基本や下二居などの所作を丁寧にご指導いただきました。腰の入れ方や体重移動などに注意して、何度も練習しましたが、体がぶれてなかなかうまくゆきませんでした。本番では、ワキや囃子に合わせての行動がなかなかうまくとれず皆さんにご迷惑をかけてしまいました。シテ、ワキ、地方や囃子方がうまく連携してこそ完成するものだと感じました。

装束係の皆さんには、舞台で行動し易いようにとの配慮で三人がかりで素襦を着せて頂きました。能を演ずるにはいろいろな係りがあって、うまく機能して完成するものだということを実感しました。

舞台の作り物も必要な物は手作りで用意していることや衣装や道具類も会津能楽会で古くから集めて今も大切に保存、使用していることなど

能楽に携わる方々の努力に関心しました。この能楽会の伝統を維持継承していくことが重要な課題だと思いました。

能演目と上演回数調べ

—昭和24年秋から

平成29年秋まで五十一曲—

回数	演目	役者	役者
1回	通小町	三井寺	六浦
2回	岩船	藤戸	清経
3回	鉄輪	敦盛	熊野
4回	葛城	高砂	松虫
5回	草紙洗	雲雀山	忠度
6回	小督	須磨源氏	西王母
7回	桜川	俊寛	枕慈童
8回	熊坂	巴	鶴亀
9回	八島	玉葛	小袖曾我
10回	紅葉狩	猩々	胡蝶
11回	黒塚		
19回	羽衣		
20回	土蜘蛛		

（参考資料 会津の能演、会報及び番組文責 鈴木圭介）

根ざし行く育成委員会活動

能教室等の実施状況

平成二十八年年度

月・日	学校等	学年・人数
3・15	伝統文化であそぼっ ※	親子約 40 人
5・3	こども祭り ※	※
6・14	湊小 ※	子ども 82 人・大人 120 人
6・27	河東学園小	六年生 11 人
6・30	日新小 ※	六年生 63 人
7・6	行仁小 ※	六年生 55 人
7・12	謹教小 ※	六年生 67 人
7・14	城西小	六年生 74 人
7・15	鶴城小 ※	六年生 102 人
9・2	城北 ※	六年生 41 人
9・6	永和小 ※	六年生 91 人
9・30	城南小 ※	六年生 16 人
10・9	ワークショップ ※	六年生 73 人
11・13、 11・20、 11・25	一般 17 人 (中国人 2 人含)	※
12・4、 11・17、 11・25	ワークショップ 受講者対象	※
希望者 4 人内 1 名途中から欠席	希望者講座 ※	※
10・20	松長小	六年生 53 人
10・28	神指小 ※	六年生 13 人
10・31	大戸小 五・	六年生 19 人
11・8	小金井小	六年生 123 人
11・10	荒館小	六年生 44 人
12・3	本郷中	六年生 44 人
全校生・教職員・PTA 約 200 人		

能のはなし



模範演技



笛



小鼓



能教室・講座受講者の感想文

能教室の感想

会津若松市謹教小学校 萬實 鉄彦

謹教小学校の能教室は、秋晴れのもと
会津能楽堂で実施していただきました。
私は前任校から能教室を体験させていた
だいていて、今回で三回目になります。
毎回会津能楽堂で見させていただき、伝
統芸能のすばらしさに感動しています。
この教室の子どもに与える芸術的な効果
は、何より子どもたちの生き生きとした
表情が物語っています。本やテレビでも
能や狂言などを目にすることができます
が、生で見るのとは教育的な価値が違
います。自分の目で耳で、そして体で体験
できるところにすばらしさがあると思
います。

能教室の内容も、短い時間の中にた
くさんの内容が盛り込まれていて、子ども
たちは日本の伝統芸能を満喫することが
できました。実際に能を見せていただ
いたり、笛、小鼓、大鼓を演奏させて
いただいたりと時間内にたくさんを体
験することができました。それも会津能
楽会の方の諸準備のおかげだと思
います。感謝申し上げます。

子どもたちに日本の伝統を受け継い
でいってもらうためにも、この能教室を今
後も継続していただければと思います。
ご多用の中、子どもたちのために
ありがとうございました。

12・18	12・4	11・27	11・26	11・15	11・8	10・24	10・20	10・9	9・15	9・13	9・8	7・24	7・19	7・14	7・13	7・11	7・5	6・29	6・27	6・21	6・16	6・14	5・5	3・12	平成二十九年度	12・15	12・9
郡山名倉公民館	安積三小	城西小	日本文化に親しもう	喜多方東高	高校音楽教師	坂下南小	謹教小	松長小	城南小	ワークシ	荒館小	永和小	小学校の先生	坂下東小	鶴城小	小金井小	神指小	行仁小	日新小	駒形小	城北小	湊小	一箕小	子どもまつり	伝統文化であそぼつ	安積小	郡山赤木公民館
一般人10人	六年生72人	六年生79人	保護者・子ども35人	先生12人	六年生89人	六年生64人	六年生61人	一般男女13人	六年生48人	六年生15人	六年生42人	音楽の先生18人	湊小学校	六年生62人	六年生43人	六年生100人	六年生19人	六年生46人	六年生52人	全校生77人	六年生70人	六年生5人	六年生126人	子ども32人・大人44人	親子約40人	一般(男女)45人	六年生93人

平成二十九年 度

北会津地区小教研音楽科所属の
先生方々の感想

- 能は知っていたけど歴史を改めて聞き、実際に謡ったり小鼓を演奏したりすると日本の伝統文化の良さをさらに実感することが出来ました。掛け声や謡の声がとても素敵に響いており発声練習もかなり行っているなど思いました。(A氏)
- 映像で見たことはありませんでしたが実際に触れることが無いので楽しみでした。謡や鼓などすごく難しいイメージがありました。イメージがわかりやすく教えて下さり、イメージが変わりました。子ども達にも実際にさせたいなあと思いました。(B氏)
- 初めて体験させていただき本物の音を聞くことが出来ました。授業の中で子供たちに写真の中の話でなく、自分の言葉で教えてあげることが出来そうです。お腹から出る声に聞きほれていました。能演会のポスターを校内に貼るだけでなく行ってみたいと思いました。(C氏)
- 能楽の歴史や会津における能についてお話いただいたので、それを知ったうえで高砂や小鼓の演奏が体験することが出来た点がとてもよかったです。鼓の音が耳元で美しく響くとき心が躍るように感じました。伝統の重みを感じた講習でした。(D氏)
- 七五調、平ノリ、八拍子など今まで経験したことのないことを経験できました。小鼓をたたいたことも楽しかったです。(E氏)

観能記

『小督』を観て

佐藤 仁

平成二十九年十月二十八日、その日は旧暦九月九日、重陽の節句だった。月齢半月、残念ながら仲秋の名月にはまだ間があった。思いがけなく新潟りゅうとびあ能楽堂の「秋の能楽鑑賞会 宝生会」名月のもとで「小督」のチケットが手に入った。演目は「小督」。十二時三十分開演、二番の仕舞、狂言「呼声」を観ていよいよ本番。囃子方、地謡が着座すると一噌流藤田朝太郎師の名乗り笛が嬋々と響く。

舞台はいつか進んでシテ仲国が男舞を舞って名残を惜しむ。小督から預かった高倉帝への手紙を懐に仲国が帰途に就く。橋掛かりをたどる仲国をワキ座に立った小督が目で追う。なかほで立ち止まり振り返る仲国。小督の眼と仲国の眼とがしっかりと結び合う。ふと、小督が思わず二足詰める。その一瞬わずかな所作と表情を消した小面に小督の万感の思いがこもる。留の高音の目布が静寂を裂いて、シテ仲国が幕に消えて、能「小督」は終わった。

原作『平家物語』にこのシーンはない。小督が尼になろうとしていることを知った仲国は伴った従者をとどめ置き、見張りを命じて、急いで

宮中に帰参。帝にことのいきさつを注進すると、帝は今夜中に宮中に連れてくるよう命じる…という無粋な展開になる。

帰路の車中、シテを演じる直面の大友順師の凛々しい尊顔を思い浮かべながら余韻を反芻していると、ことはすべて名月の薄明のもとでおこなわれたことに思い至り、改めてこの能作者（不明）の才能と演出の妙のため息が出た。

特別寄稿

会津で見つかった宝

キム・ロツケル

ニュージーランド出身のギタリストや民族音楽学者として世界旅中日本へ訪れる機会ができてきた。初来日前、日本のことが何もわかりませんでした。成田空港到着してすぐ素晴らしくてもっと知りたい国と思いました。私の最初の「第二の故郷」の茨城県古河市から、北海道江別市と埼玉東大宮市で母国語の英語を教えながら、日本語を独学してやっと平成二十五年に会津大学言語研究センターにつとむために会津若松に移住しました。NHKテレビで一回しかお能をみたことがなかったのですが、能楽と侍との歴史的な関係を音楽史本参照して分かってきたのです。が、歴史深い会津でお城のそばの能

劇場で初めて生舞台をご覧いただきまして感動しました。それで「お能を習ってみたい」という覚悟を發表して職場の仲間達は信じられない顔をしたか笑い出しましたのかどちらになりました。夢を諦めなくてCLRセンター長ロジスキ先輩の妻ソレンの親切のおかげで佐藤ヨシカ先生に紹介されました。初稽古緊張しながら小島原さんの案内でヨシカ先生の自宅を見つかりました。想像意外なほど難しいと思つて汗をでつたり泣き出しそうな気持ちが無視にして先生の見事らしい教えかたのおかげで初稽古を録音しますが、宝生流見本の漢字とお能の独特な記号を読むために鉛筆ロ마자やふりがなもかけないと今までこまります。ヨシカ先生の指導で会津坂下、会津能楽劇場、萬花楼などでお能のイベントに参加して鶴亀の謡や仕舞を演技することは私の人生の忘れられない大事な体験です。日本に滞在するうちにできるだけお能を勉強続けたいです。大学の生徒たちも能楽を体験したくなれキャンパス内の能楽サークルを設置することができれば幸いです。足袋を購入の手伝ったり、見本の美しいケースを作ったり、公演のために衣装を貸したりするような優しさに会員にとっても感謝しております。これから一緒にますます頑張ります。 (原稿のままにしました。)



として、
れなぐでもてきた。
のことが何とわがリませ
い、成田空港到着してすぐ素
くてもっと知りたい国と思
し。私の最初の「第二の故郷」
古河市から、北海道江別市と埼玉東大宮市で、母国語の英語を教えながら、日本語を独学してやっと平成25年に会津大学言語研究センターにつとむために会津若松に移住しました。NHKテレビで一回しかお能をみたことがなかったのですが、能楽と侍との歴史的な関係を音楽史本参照して分かってきたのです。が、歴史深い会津でお城のそばの能劇場で初めて生舞台をご覧いただきまして感動しました。それで「お能を習ってみたい」という覚悟を發表して職場の仲間達は信じられない顔をしたか笑い出しましたのかどちらになりました。夢を諦めなくてCLRセンター長ロジスキ先輩の妻ソレンの親切のおかげで佐藤ヨシカ先生に紹介されました。初稽古緊張しながら小島原さんの案内でヨシカ先生の自宅を見つかりました。想像意外なほど難しいと思つて汗をでつたり泣き出しそうな気持ちが無視にして先生の見事らしい教えかたのおかげで初稽古を録音しますが、宝生流見本の漢字とお能の独特な記号を読むために鉛筆ロ마자やふりがなもかけないと今までこまります。ヨシカ先生の指導で会津坂下、会津能楽劇場、萬花楼などでお能のイベントに参加して鶴亀の謡や仕舞を演技することは私の人生の忘れられない大事な体験です。日本に滞在するうちにできるだけお能を勉強続けたいです。大学の生徒たちも能楽を体験したくなれキャンパス内の能楽サークルを設置することができれば幸いです。足袋を購入の手伝ったり、見本の美しいケースを作ったり、公演のために衣装を貸したりするような優しさに会員にとっても感謝しております。これから一緒にますます頑張ります。 (原稿のままにしました。)

おぼろげなホームページ

八十歳にてスマホゲームのソフトを公開したご婦人の話題が、師走のNHKTV放送で取り上げられた。その人は市役所を定年退職を機にパソコンに向かい「老人でも楽しめる」、「時間制限のない」ゲームを作ろうとプログラミングの勉強を始め、数年で完成させたというから驚きである。日本はもちろん外国人も楽しめるよう翻訳が試みられているという。

われらの能楽ホームページは十五年前の二〇〇二年から始まっている。もちろん、当時は「能楽」に関するホームページはごく僅かで大半は大学の能楽研究会のもので、確かに数十件であった。その後、ホームページは爆発的に発展し、現在に至っている。このように、パソコン技術は文字どおり日進月歩で高齢者は追いつけない。唯々、管理人の意欲、能力、人材不足に起因している。

さて、前号でホームページ大改築の概要を書いたが、今回のマイナー改築をお知らせしたい。それは、小さな写真でしか見られなかった「素謡」「仕舞・舞囃子」「装束方」をクリックすれば、「演能」の写真と同じサイズで見ることができるようにしたことである。今まで、ご不満の

方には朗報であると思う。元気な様子をアップで見られるので離れて暮らす家族、お孫さん、親戚、友人に是非知らせてほしい。

今後は十数秒から数分の動画や音声視聴できるようにホームページを改築したい。遅々とした歩みであるが、進化したい。

(文責、鈴木 圭介)

小さな画面をクリック



大きな画面となる

会津能楽囃子会の動き

▽第二十七回会津能楽囃子会

平成二十八年三月二十日(日)

会場 萬花楼 午前十時三十分始

番組

舞囃子 高砂他十五曲

連調 太鼓西王母 大鼓桜川

小鼓薪ノ段

連管 舞働

▽第二十八回会津能楽囃子会

平成二十九年三月十一日(土)

会場 萬花楼 午後一時始

番組

舞囃子 七騎落他九曲

素囃子 神舞五段

平成二十八年一月十日会長の山田和彦氏が逝去した。能楽会会長退任後も囃子会の会長を務め、囃子謡の勉強会等に尽力された。衷心より哀悼の意を表したい。

平成二十八年は連調・連管等の四拍子を各々行った。数年毎には良い演目だと思ふ。数名が同時に打つ・同じ音色を出すというのは簡単なようで難しい。揃えば美しいし、心地よいものである。

平成二十九年は記念大会以外の会では初めて職分の武田伊佐先生を招いて会を催したが、緊張感が違つて

いたと思う。若くても職分の先生の力は違うことを実感した。男性の職分の先生にもお願いをしたが、他の予定等の関係で都合がつかなかった。

毎回の事であるが、早め早めと思いつながら番組の確定が十二月末になつてしまふ。猛反省である。

事務局 上野 正義

和楽会の動き

▽第一二六回和楽会

平成二十八年四月二十四日(日)

会場 会津能楽堂 午前十時始

番組

素謡 杜若他五曲

仕舞 養老他七曲

連調 大鼓 桜川

独調 小鼓 薪ノ段

▽第一二七回和楽会

平成二十九年四月二十三日(日)

会場 会津能楽堂 午前十時始

番組

素謡 土蜘蛛他八曲 連吟一曲

仕舞 熊野他十一曲

独調 大鼓 中ノ舞 小鼓 狸々

会報第七号にも記載しましたが、昭和三十年第一回和楽会は参加グループが十九団体でした。

ちなみに平成十九年十月八日記念の百回目の大会は十二団体の参加で、素謡十二番、仕舞十八番、連調連管各一番の内容で文化センターにおいて華やかなに行われました。

平成二十九年は七団体の参加と、団体数は減少していますが、昨年行われた文化振興財団主催のワークショップに参加された方の内、三名が引き続き謡と仕舞の稽古を受けて今年の和楽会に出演し、現在も稽古を続けている事を考えると、まだまだ頑張つて会員を少しでも増やして行きたいという気持ちになります。そして内容も充実したいと思っています。

会長 佐藤ヨシカ

役員名簿

平成二十八年一月現在

会長	佐藤 ヨシカ
副会長	湯田 眞佐弘
理事	折笠 成美
理事	平山 昇
理事	上野 正義 (事務局長)
理事	玉川 おくに (庶務)
理事	渋川 兼三 (庶務)
理事	栗城 幸子 (会計)
理事	坂内 庄一 (会計)
理事	鈴木 圭介
理事	一条 正夫
理事	小野木 和子
理事	角田 久美子
理事	堀 篤子
理事	渡部 妙子
理事	河合 政弘

平成二十九年一月現在

会長	佐藤 ヨシカ
副会長	湯田 眞佐弘
理事	折笠 成美
理事	平山 昇
理事	上野 正義 (事務局長)
理事	玉川 おくに (庶務)
理事	渋川 兼三 (庶務)
理事	栗城 幸子 (会計)
理事	坂内 庄一 (会計)
理事	鈴木 圭介
理事	一条 正夫
理事	小野木 和子
理事	角田 久美子
理事	堀 篤子
理事	渡部 妙子
理事	河合 政弘

委員会構成 (代表者)

演能企画委員会	折笠 成美
財産管理委員会	一条 正夫
能装束着付部	小野木 和子
広報委員会	湯田 眞佐弘
会報編集委員会	鈴木 圭介
ホームページ作成委員会	鈴木 圭介
育成委員会	平山 昇

「その他」の情報

▼能楽会員の状況

平成二十八年二月 八十八名
平成三十年一月 八十名

入会者 十名
渡部 孝美 星 幹男

編集後記

○会報第八号をお届けします。

○第一回編集会議の時点でほぼ原稿が集まり、作業が円滑にできました。改めてご協力を感謝申し上げます。

○巻頭を観世流の重鎮湯田眞佐弘様のおことばで飾ることができたことは画期的でした。ありがとうございます。

○「根ざし行く育成委員会」今回は、時系列に沿った記事とし、写真の配列はフローチャートを意識したものです。

○キム・ロツケル氏の寄稿文は日本文化に触れた感動が率直に表現されているばかりでなく、日本語の読み書きをここまで熟されたことに編集子一同驚くとともに深く感服いたしました。

○会津能楽会では、年三回能演会でのような演目が上演されたのか、諸資料を素に一覧にしてみました。参考にしていただければと思います。

○暦はまだ旧暦の師走に入ったばかり。会員諸兄姉のご自愛とご精進をお祈りして後記といたします。

鈴木 圭介 石田 佳子
上野 正義 佐藤 仁
増井 典子 角田 久美子

